



ワンマン運転実施における諸課題の解決を求める申し入れ

JR東日本では現在、在来線66線区中47線区でワンマン運転が実施、さらに今後は常磐緩行線、南武線、横浜線と計画されています。一方で「車載用ホームモニタシステム」による視認性や死角の問題、接続等の案内に関わる問題は遅々として進んでいません。収益確保と効率化に注力するあまり、多発する安全問題やサービス品質の低下を見過ごすことはできません。現在の短・中編成ワンマン運転における課題解決なしに、今後のワンマン運転の拡大および長編成ワンマン運転実施は到底容認することはできません。



1. 短・中編成ワンマン運転実施における事故・事象の発生件数並びに原因と対策を具体的に明らかにすること。
2. 「車載用ホームモニタシステム」に関する故障発生件数並びに故障原因、改修実績を具体的に明らかにすること。また、カメラの定期清掃の在り方及び経年劣化に対する考え方を明らかにすること。
3. 「車載用ホームモニタシステム」において「赤化」「白化」が発生し、安全を阻害していることから対策を実施すること。また、ワンマン運転実施線区における駅設備としてホーム屋根を設置するとともに照明設備との照度調整等の改善を図ること。
4. ワンマン運転時の起動開始時に触車や戸挟み等が発生したことに対する見解と対策を示すとともに、駅ホームにおける安全確保のための整備を行うこと。
5. ワンマン運転の実施にあたっては、輸送品質・安全品質・サービス品質及び線区の特情を考慮した列車運行計画と車両・ホーム設備を構築したうえで実施すること。
6. 今申し入れに対する回答及び団体交渉は2024年4月30日までに実施すること。

社員・利用者が安心して利用できる鉄道創造に向け、職場から声をあげましょう!



ワンマン運転実施における諸課題の解決を求める申し入れ

5月9日 団体交渉を行う!

中編成ワンマン運転実施以降、問題が多く発生している!
現在の短・中編成ワンマン運転における課題の解決を図ることなしに、
今後のワンマン運転の拡大・長編成ワンマン運転の実施は認められない!

1. 短・中編成ワンマン運転実施における事故・事象の発生件数並びに原因と対策を具体的に明らかにすること。

(回答) ワンマン運転を拡大した線区において、鉄道運転事故につながる可能性のあった事象はない。 引き続き、安全対策は実施していく考えである。

停止現示で起動開始、ホームと反対側のドア開扉など、ワンマン運転実施以降、
数多くの事故・事象が発生している! ワンマン運転によりこれまでの運転操縦に
加え、乗降確認やドア扱いなど作業量が増えたことに起因するものだ!

中編成ワンマン運転実施線区における以下の事故・事象の発生件数を求める!

- ◆ 停止現示で起動開始した事象
- ◆ 駅間停車中にお客さまがドアコックを扱い降車した事象
- ◆ 乗降扱い中、電車が流転した事象
- ◆ ホームを外れてドア開扉した事象
- ◆ 白杖などの戸挟まりの事象
- ◆ ドア閉扉後にお客さまがけがをされた事象

「ワンマンでもツーマンでも発生する事象」と述べる会社の
安全軽視・現場軽視・真実から目を逸らし誤魔化そうとする姿勢は、
究極の「安全」の実現、グループ安全計画 2028 で掲げる

「本質をふまえ、想定外も想像して安全を先取る」ことなど

できるはずがない!

現場と安全に対する考えが乖離することでは安全は守れない!
修正回答を検討することを確認し、1項途中で終了!